



B 日程

二〇一三年度

尚綱学院高等学校

入学試験問題

国語

試験時間(五〇分)

注 意 事 項

- 一. 「始め」の合図があるまで問題の表紙を開かないでください。
- 二. 解答用紙には決められた欄に受験番号のみ記入し、氏名は書かないでください。
- 三. 解答は必ず解答用紙のそれぞれ決められた欄に記入してください。
- 四. 印刷が見えにくい場合は、手をあげて監督者の指示に従ってください。
- 五. 考査が終わったら、解答用紙と問題用紙を別々にしておいてください。
- 六. その他すべて、監督者の指示に従ってください。

受験番号

--

第一問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

桂正太郎は、身じろぎもせず立ち尽くしていた。

研修医生活が始まってすでに半年、X 事態も何度か経験していたが、
こういう緊張感は初めてのことであった。

時間は深夜の一時、場所は内科病棟のスタッフステーションである。
廊下の照明はすべて夜間灯に切り替わり、ステーション内だけが皓々と白い光
に包まれている。

その片隅に立つ桂の前にゆったりと腰を下ろしているのは、指導医である循環
器内科の谷崎だ。向かい合うように、先刻駆けつけてきたばかりの患者の家族が
座っている。

「何度も申し上げたとおり、村田さんは八十二歳という高齢です。このまま看取っ
てあげた方が、ご本人も楽だと思えます」

谷崎の淡々とした声が、何やら不必要に大きく聞こえた。患者の妻に当たる老
婦人とその娘の二人が、どちらからともなく顔を見合わせた。すぐには声は出
なかった。

「でも先生」とようやく震える声を発したのは、老婦人の方である。

「おじいさんが入院したのはほんの一週間前です。それまでは元気だったんです」
「よくあることだと思います」

谷崎のあまりに静かな返答に、桂はひやりと背筋が寒くなる。

「ついこの前まで元気だったからこれからも元気だ、と考える方が不自然でしょ
う。まして村田さんはもともと重症の心不全がありました。こういう事態は想定

の範囲内です」

年老いた婦人の顔から血の気が失われていくのを見るに堪えかねて、桂は、す
ぐ傍らのモニターに視線を動かした。

隣の重症室にいる村田さんのバイタルを示したモニターだ。

収縮期血圧 82、脈拍 36、SpO₂ 82パーセント……。

すべてが極めて危険な数値を示している。そばにいる看護師が気を遣ってアラ

ムを消しているから静かだが、設定を戻せば、たちまちたたましい電子音がス
テーション内に響き渡るに違いない。

「でもお父さんはすごく元気だったんですよ。急に看取るようにと言われても納
得できません」

口を挟んできたのは、娘に当たる中年女性だ。

呆然としている老婦人と異なり、こちらの女性は、語調に微妙なニュアンスが
含まれている。父親の急変に対する、ささやかならざる不信の響きだ。

「もう少し何かできることはないんでしょうか？」

「医療は万能ではありません。点滴と酸素でこれまで通りの治療を続けて、それ
でだめなら看取るしかありません」

「でも先生は先ほど、抗生剤も昇圧剤も使わないとおっしゃいましたが、やれば
もう少しくらいがんばれるということですよ？」

「お若い方であれば選択肢にもなりますが、村田さんの場合は意味がありません」
あくまでも落ち着き払ったその口調は、この場合、どう考えても的確な話し方

とは桂には思えなかった。けれども谷崎は、慰めやいたわりの言葉といったもの
を、まとめて医局のデスクにでも置き忘れてきたかのごとく、超然たる態度を微
塵も変えることがない。

「最近まで元気だったということは、苦しむ期間が少ないということです。ご本
人にとっては幸せなことだと思います」

娘は、返す言葉も出てこないまま沈黙した。

後ろにいた看護師が、見かねたように歩み寄り、気遣いの言葉をかけている。
声をかけつつ、ちらりと主治医へ走らせた視線には、少なからず険悪なものを含
まれている。

もう少し別の言い方はできないのか。そんな訴えの視線だが、Y 指導

医は眉一つ動かさない。

「最新の大事な時間です。そばにいてあげるのが良いと思いますよ」

口調も内容も穏やかであったが、それはつまり会話を打ち切るといふ合図でし
かなかつた。

老婦人は小さな肩を落としてうなだれ、やがて、看護師と娘の手を借りて立ち上がると、**Z** 調子で、すぐ向かい側の夫のいる病室に吸い込まれていった。

再びもとの静寂に戻ったステーションの片隅で、バイタルサインを表示するモニターは、生真面目に赤い明滅を続けている。

ふいにカタカタと乾いた音が響いたのは、谷崎が説明内容を電子カルテに入力し始めたからだ。

いびつな沈黙の中、桂は恐る恐る口を開いた。

「あの、谷崎先生……」

「なんででしょうか、桂先生」

ゆっくりと椅子を回転させて振り返った指導医は、穏やかな微笑を浮かべていた。

「本当に、このままお看取りですか？」

「お看取りです。八十二歳の心不全患者ですよ。余計なことはしないのが私の方針です」

「ですが」と桂が食い下がったのは、なにか特別な信念があったからではない。せいぜいが、研修医ならではの怖いもの知らずの勇氣ということであろう。

「もちろん僕も、人工呼吸器や透析が正しい選択だとは思いますが、もう少し追加できる治療はあると思います。昇圧剤もそうですし、何よりも今は酸素さえ、マスクで3リットル流しているだけです。10リットルくらいまでは簡単に増やせるのに……」

「先生は一年目の研修医でしたか？」

唐突な質問に、桂は戸惑いがちにうなずいた。

「私が一年目だったころとは大違いですね。大変優秀で立派だ」

微笑とともに、軽く自分の顎に手を添えながら、

「おまけに度胸もある。二十年先輩の指導医に向かって、こんなにはっきり意見をするんですから」

どつと冷や汗の噴き出す桂を、谷崎は楽しそうに見守りながら、「冗談ですよ」

と笑っているが、どこまで冗談かわかったものではない。

ただ、老練な上級医の浮薄な態度が、かえって若い研修医を刺激したことは確かであった。桂は胸の内の引っかけりを、**E** 遠慮の籜を外して吐き出した。

「患者さんの治療方針を決めるのは、患者さん本人か、それが難しい時は家族であるべきだと言います。先生の説明では、少し強引過ぎるように感じるんです」

「なるほど、では仮にご家族が、人工呼吸器と人工透析と人工心肺を希望した場合はどうしますか。どこまでもご家族の希望に従って突き進むことが、模範的な医師の態度ということになりますか」

「それは……」

桂は言い淀んで、口をつぐんだ。

大きく踏み込んで突き出したはずの渾身の一撃は、あっさりかわされて、虚空を泳いだ形だ。指導医の論法はあまり真つ当なものではないが、そこには確かに微妙な問題が含まれている。そのことを直感したために、桂は容易に応じることができなかつた。

(夏川草介「勿忘草の咲く町で」による)

問一 空欄

X

Y

Z

のを、次の選択肢からそれぞれ選び、記号で答えなさい。同じ記号は二度使えませぬ。

- ア 菩薩のごとき イ 冷や汗を掻くような ウ 魂が抜けたような
エ 鉄のごとき オ 波が引くような

問二

A 「想定**の**範囲内」とあるが、ここではどういうことか。「予測」という言葉

を使い、解答用紙の「……こと。」に当てはまる形で、……のところを四十字以内で書きなさい。

問三 「年老いた婦人の顔から血の気が失われていく」とあるが、このときの「婦人」の説明として最も適当なものを、次の選択肢から選び、記号で答えなさい。

ア 夫が長く病に苦しんでいたことに気づけず最悪の事態になり、自分を責めている。

イ 夫の死を受け入れることができず、少しでも可能性がないか考えを巡らせている。

ウ 我が夫の容態に動揺し、もうどうにもならないことに深くショックを受けている。

エ 少し前まで元気だった夫の容態を悪化させたのは谷崎だと確信し、怒りに震えている。

問四 「語調に微妙なニュアンス」とは、娘である「女性」のどのような気持ち

を指すか。最も適当なものを、次の選択肢から選び、記号で答えなさい。

ア 父の容態悪化は適切な医療を受けられていないからだと疑う気持ち。

イ 父の死期については理解しつつも、谷崎の横柄おうへいな態度を非難する気持ち。

ウ 父の死が目の前に迫り、気丈に振る舞いつつも内心は落ち着かない気持ち。

エ 父を助けるために必死なふりをしていながらも、半ば投げやりな気持ち。

問五 「会話を打ち切るといふ合図」とあるが、「谷崎」のこの「合図」の意味する

ところとして最も適当なものを、次の選択肢から選び、記号で答えなさい。

ア 村田さんの死期が迫りつつある中、どう選択すべきかなかなか決断できない患者の家族たちに対していらだちをぶつけている。

イ 村田さんの死を目前に動揺している家族たちに対して、村田さんの容態急変は自分の落ち度ではないことを強調している。

ウ 村田さんを苦しめないうために、今後村田さんへ一切の医療行為はしないと自分の決定を周りの人間に示している。

エ 村田さんを延命させるための積極的治療はしないと方針を曲げる気はないことを、村田さんの家族に表明している。

問六 「遠慮の籬を外して」とあるが、そのきっかけは何か。最も適当なものを、

次の選択肢から選び、記号で答えなさい。

ア 研修医の桂に対してからかうような態度を谷崎がとったこと。

イ 谷崎に優秀だと認められ、桂に医師としての自信がついたこと。

ウ 桂が上級医である谷崎の医療技術について疑念を抱いたこと。

エ スタッフセッションに谷崎と桂の他には誰もいなかったこと。

問七 「桂」の人物像として、最も適当なものを、次の選択肢から選び、記号で

答えなさい。

ア 頑固で正義感が強く、人の生死をも医療の力で制御できるといふ自分の考えを貫くためならば上級医にでも迷いなく意見し、真つかに聞こえる一般論を論破する一本筋の通った青年。

イ 終末期の患者を任せられるほど優秀で医師として将来を有望視されている分、その期待に応えようと力を尽くそうとするが、医局の序列の前では無力で右往左往している青年。

ウ 常に患者を第一に考えているがゆえに患者の延命に真剣に取り組んでいるが、多くの死を目の当たりまにしてきた指導医の説得力のある話にも理解を示せる賢明な青年。

エ 患者に寄り添う姿勢を理想とし、勇気を出して先輩医師に自分の意見をぶつけるも、医療の限界とどう折り合いをつけるかという難題に気づかされ悩む、純粹で真面目な青年。

第二問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

読書は何のためにしなければいけないものなのか、読書をするかどうか、すでに述べたように、読書は自分をつくるのに力がある。それとともに強調しておきたいのは、読書をするコミュニケーション力が格段にアップするということだ。

普通の会話をしていても、読書力のある人とない人とは、会話の質が変わってくる。学生を相手に会話をしていると、本を読んでいる学生かそうでないかはすぐにわかる。読書をしているかどうかという質問をしなくても、コミュニケーションの質からわかるのだ。

では、読書をしているかしていないかの影響は、コミュニケーションにどのような影響を与えるのであろうか。

はっきりと言えるのは、会話に脈絡があるかどうかという違いだ。中学生や高校生の友だち同士の会話を聞いてみると、まったく脈絡のない話を次々に行っていることがよくある。それはそれで友だち同士なので楽しい会話になっているのかもしれない。問題は、^A親しい友人以外と話す場合だ。脈絡のない話し方は通用しない。相手の言ったこととまったく無関係に「Iというか」という始まりで、I別の自分だけに関心のある話をしたならば、相手はうんざりしてきて人格さえも疑うようになる。脈絡のない話し方は、社会性がないと受け取られる。

では、脈絡のある話し方は、どのようにしてできるのか。

それは、相手の話の要点をつかみ、その要点を引き受けて自分の角度で切り返すことによってである。通常、人の話には幹と枝葉がある。しっかりと相手の言っていることの幹を押さえて、それをII伸ばすように話するのが会話の王道だ。この幹をつかまえる力は、読書を通じて要約力を鍛えることによって格段に向上する。

会話は空中を流れていくイメージなので、つかまえてどこがない。それに対して、本は文字が固定されているので、振り返って要点を探しやすい。読書で要旨をつかまえることのできない人は、質の高い会話のやりとりは難しい。会話で要

点を外さずに捉え、うまく切り返す能力は、^Bいわばどのコースに来るかわからない球を打つようなものだ。本の場合は文字として固定されているので、どのコースに球が来ているのかくらいはわかる。そこで要約力を鍛えることによって、ライブでの会話の要約力が向上する。

会話は、自分の話したことがきちんと相手に受け止められると思うことによって、お互いに盛り上がる。きちんと受け止めたかどうかを示すのが、相手の言っていることを自分の言葉で言い換えるというレスポンス(応答)だ。「なるほど」、「そうですね」、「たしかに」といった相槌^Cだけでも、会話は潤滑油を注がれたように滑らかになる。

この相槌をより高度にしたものが「自分の言葉で言い換える」ということだ。相手の言葉を鸚鵡返しにするだけでも、会話のリズムはよくなる。それをヴァージョンアップさせて、言葉を換えて同じ内容を言い換えることができれば、相手の言っている内容をしっかりと理解しつかまえていることが、相手側にもはっきりと伝わる。「同じ内容を自分の言葉で言い換えてみよう」という課題は、幼い頃から繰り返し練習する価値のあるものだ。この「言い換え力」は、コミュニケーションの中でIII基礎的なもののひとつだ。

自分の言葉で言い換えるためには、語彙が豊富である必要がある。それは読書によって効率よく鍛えられるものだ。言い換えにはコツがある。抽象的なものは、具体的なものに少し直し、具体的な発言に対しては、少し抽象度の高い言い方で言い換える。

新書系の本の場合は、論旨が具体例とセットになって書かれていることが多い。一般的な言い方の文章の後に、「たとえば」というように例が挙げられる。これを二人の会話で行うということだ。一般的な発言に対しては具体例を、具体例を相手が挙げれば、それを一般化する。こうしたやりとりによって、幹を失わない、しかも起伏のある会話ができる。

会話をしていて相手が喜ぶのは、自分のいった話が無駄に終わらずきちんと相手に届いて、しかも生かされていると感じる場合だ。それが具体的にはつきりするのは、相手の話の中に自分の言ったキーワードが入り込んでいるかどうかであ

る。自分の発言の中でも、重要だと自分が感じていた言葉（キーワード）を相手が使ってくれば、それだけでも会話に勢いが出てくる。

しかしこの程度のことならば、読書をしなくても何とかできるかもしれない。読書経験が生きてくるのは、五分前、十分前、二十分前に話された相手の言葉を引用して会話に組み込める技においてだ。現在の文脈そのものには出てこない、いわば、すでに地下に潜ってしまった水脈を、もう一度掘り起こすのである。

その言葉を話した本人でさえも、今の時点では意識していない言葉を、もう一度舞台上上げる。すると、相手は自分の過去に話した話と現在の話とが結びつくのを感じ、自分の中に脈絡ができたことを喜ぶ。もともと気が利いているのは、話している相手がつながっていないものをつなげてあげるといふことだ。こうしたことができるためには、「メモを取る習慣」が必要だ。この力をつけるためには、「**D**メモを取る習慣」が必要だ。

私はちよつとした会話でも、簡単なメモを取る。図にすることもある。メモを取っておけば、相手の話の脈絡がつかみやすい。会話を**X**にするには、自分の思考と相手の思考とを混ぜ合わせることが必要だ。自分の言いたいことだけ言って終わりという人をしばしば見かける。これは思考のすり合わせができていないケースだ。メモを取る習慣のある人は、自分の脈絡だけで話をしないようになる。

さいとうたかし
（齋藤孝「読書力」による）

問一 空欄 **I**、**II**、**III**に入る言葉として最も適当なもの

のを、次の選択肢からそれぞれ選び、記号で答えなさい。同じ記号は二度使えませんが、

- ア まったく イ 少しも ウ もつとも エ やはり オ より

問二 「**A**問題」とあるが、ここでの「問題」とは何か。最も適当なものを、次の選択肢から選び、記号で答えなさい。

ア 親しい友だち同士で話すときに、まったく脈絡のない話を延々としてしまうこと。
イ 中学生や高校生が脈絡のない話を友人とすることを、楽しいと思っていること。
ウ 親しい友人以外にも脈絡のない話し方をし、社会性がないと評価されること。

エ 相手がうんざりしていても、友だちだからと人格を軽視して無関係に話すこと。

問三 「**B**いわばどのコースに来るかわからない球を打つようなもの」とあるが、この比喩を用いることで、筆者はどのようなことを強調したかったのか。「会話」という言葉を使い、五十字以内で書きなさい。

問四 「**C**自分の言葉で言い換える」について、次の1、2の各問いに答えなさい。
1 「自分の言葉で言い換える」ことのメリットとして最も適当なものを、次の選択肢から選び、記号で答えなさい。

ア 会話のリズムがよくなり、相槌を打たなくとも相手は自分を受け止めてくれていると実感できる。
イ 鸚鵡返しを繰り返していた時は全く反応がなかった会話が、大いに盛り上がったことを実感できる。

ウ 相手の話したことをしっかりと自分が理解できたことが改めて実感でき、自己肯定につながる。
エ 相手の話した内容をこちらが正確に理解できているということ、相手に明確に伝えられる。

2 「自分の言葉で言い換える」ために重要なことは何か。最も適当なものを、次の選択肢から選び、記号で答えなさい。

ア 適切な言い換えを可能にするために、様々な書物に触れることで多くの言葉を使えるようにすること。

イ 抽象的な表現は相手に伝わりにくいので、読書によって具体的に言い換えてできる力を鍛えること。

ウ 抽象度が高い文学的文章を読むのではなく、より具体化された新書系の本を必ず読むこと。

エ 相手が具体例を挙げればこちらが一般化するというように、会話の際には二人で交互に話すこと。

問五 D 「メモを取る習慣」とあるが、「メモを取る」ことによってどのような効果が得られるか。最も適当なものを、次の選択肢から選び、記号で答えなさい。

ア 相手との思考のすり合わせができなくとも、メモを取るという姿勢を見せることで熱心さをアピールすることができる。

イ 自分のちよっとした話にも脈絡ができ、話し相手に自分の言いたいことを確実に伝えることが可能になる。

ウ メモを頼りに少し時間が経過した相手の発言を会話に引用することで、相手の話脈絡ができ、満足のいく会話になる。

エ 会話をしながらメモを取り、そのメモを見ながらまた会話をすることで緊張せずに落ち着いて会話をすることができる。

問六 空欄 X に入る言葉として最も適当なものを、次の選択肢から選び、

記号で答えなさい。

ア エグゼクティブ イ ネイティブ ウ ポジティブ

エ センシティブ オ クリエイティブ

第三問 次の傍線部のカタカナを漢字に直し、漢字はその読みをひらがなで答えなさい。

1 赤字がルイセキして倒産が近い。

2 彼の夢はホンヤク家になることだ。

3 睡眠不足のせいで注意をオコタる。

4 彼女は清廉ケツパクである。

5 ロコツな言い方をしてしまった。

6 傷口を縫合する。

7 砂上の楼閣を築く。

8 つい声を荒げて自己嫌悪に陥る。

9 最近は専らひとりで読書をする。

10 計画の要綱を示しなさい。

第四問 次の各問いに答えなさい。

問一 次の(1)、(2)の傍線部の用言と活用形が同じものを、後のア～エの傍線部からそれぞれ一つずつ選び記号で答えなさい。

(1) 今日の放課後はもう遊ばないようにしましょう。

ア 言うとおりにしたら、うまくいったよ。

イ 観覧車にみんなで乗ろう。

ウ ゆるやかな坂道を下る。

エ 白くてきれいなドレスが来たい。

(2) とても繊細な生地なので、丁寧に扱おう。

ア 泣いた顔もかわいい赤ちゃん。

イ 「早く来い。」と兄にせかされた。

ウ 難しいことはよくわからない。

エ とても勤勉でスポーツもよくできる。

問二 次の(1)、(2)の□の語が修飾しているのは、後のア～エのうちどれか。それぞれ一つずつ選び記号で答えなさい。

(1) □もうすぐ□
ア 昔の友だちが、
イ 遠くから、
ウ やってくるので、朝から
エ そわそわしている。

(2) 今になって思うが、□やはり□
ア もっと早いうちに、
イ 彼女には、
ウ 事のいきさつを、
エ 言うべきだった。

問三 次の傍線部ア～オのうち、品詞が同じものを二つ選び記号で答えなさい。

よかれと思って妹の宿題を手伝おうとしたが、思わぬ誤解を生んでしまった
ようだ。私は、なんだか、
ア やるせない気持ちになった。でも、
ウ このままでは
いけ
エ ないと思い、思い切って妹に声を
オ かけてみた。

第五問 次の〈漢文〉と〈書き下し文〉、それに対する〈会話文〉を読

んで、後の問いに答えなさい。

〈漢文〉

司馬牛憂^{ハテ}曰^ク、人皆有^二兄弟^一。我独^リ亡^{シト}。子夏曰^ク、商聞^レ之^ヲ矣、死生有^レ命、富貴在^レ天。君子敬^{シテ}而無^ク失^フ、与人恭^{シクシテ}而有^レ礼、四海之内、皆為^二兄弟^一也。君子何患^ソ乎無^キ兄弟也。

〈書き下し文〉

司馬牛憂へて曰く、人皆兄弟有り。我独り亡しと。子夏曰く、*1 商之を聞けり、死生は命有り、富貴は天に在り。君子敬して失ふこと無く、人と恭しくして礼有らば、*2 四海の内、皆兄弟為り。君子何ぞ兄弟無きを患へんと。

(「論語」による)

【注】

*1 商：「商」は子夏の本名。ここでは子夏本人のこと。

*2 四海：世の中全体を指す。

〈会話文〉

香菜：司馬牛と子夏はともに、あの有名な孔子の弟子だったんだって。
太一：へえ、そうなんだ。司馬牛はなんだか落ち込んでいるね。
香菜：そうだね。自分に兄弟がないことを嘆いてるね。ただ、それって【A】
だって子夏は言ってるね。
太一：そうだよね。しかたないよね。ところで、君子ってどういう意味なのかな？
香菜：それは【B】って意味だよ。子夏は【B】のあるべき姿を説明して、司馬牛を励ましているんだよ。
太一：なるほど、【C】、世の中の人がみな自分の兄弟のようなものになるということなんだね。

問一 司馬牛が発した言葉はどこまでか。最後の二文字を〈漢文〉から漢字で抜き出して答えなさい。(ただし、返り点、送り仮名はつけないこと。)

問二 傍線部が「何ぞ兄弟無きを患えんと」という読みになるように、返り点を8つつけなさい。(ただし、送り仮名はつけないこと。)

問三 空欄【A】、【B】に入る言葉として最も適当なものを、次の選択肢からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- A ア 幸福 イ 不幸 ウ 運命 エ 欲望
- B ア 徳のある人 イ 権力のある人
- ウ お金のある人 エ 体力のある人

問四 空欄【C】に入る言葉として最も適当なものを、次の選択肢から選び、記号で答えなさい。

- A 世界のどこかで実の兄や弟にいつか会えると強く願ってれば
- イ 自分のふるまいに気をつけて他人に礼儀正しく接してれば
- ウ 世間の人から尊敬されて信頼を失わなければ
- エ 薄情な身内よりも近所に住む人をなにかと頼ってれば

B日程

解答用紙〔国語〕

*の欄には記入しないこと。
句読点、記号は全て一字に数えること。

受験番号
得点
*

*

第一問

問一

X
□
Y
□
Z
□

問二

こと。		

問三

□
問四 □
問五 □
問六 □
問七 □

*

第二問

問一

I
□
II
□
III
□
問二
□

問三

問四

1
□
2
□
問五 □
問六 □

*

第三問

※楷書で大きく丁寧に書くこと。

1
ルイセキ
2
ホンヤク
3
オコタ
4
ケツパク

5
ロコツ
6
縫合
7
楼閣
8

9
専
10
要綱

*

第四問

問一 (1) □
(2) □
問二 (1) □
(2) □

問三 □

*

第五問

問一 □

何患乎無兄弟也

問三 A □
B □

問四 □

B日程

解答用紙〔国語〕

*の欄には記入しないこと。
句読点、記号は全て一字に数えること。

受験番号
得点
*

第一問

問一

X
イ
Y
エ
Z
ウ

問二

高	齡	で	重	症	の	心	不	全	が	あ	っ	た	こ	と	も	あ	り	、	村	
田	さ	ん	の	急	な	容	態	の	悪	化	は	予	測	で	き	た	と	い	う	
こ	と	。																		

問三

問三

ウ

問四

ア

問五

エ

問六

ア

問七

エ

第二問

*

問一

I

ア

II

オ

III

ウ

問二

ウ

問三

会	話	は	読	書	と	違	い	つ	か	み	ど	こ	ろ	が	な	い	の	で	、	
要	点	を	外	さ	ず	に	捉	え	切	り	返	す	こ	と	は	難	し	い	と	
い	う	こ	と	。																

問四

1

エ

2

ア

問五

ウ

問六

オ

第三問

※楷書で大きく丁寧に書くこと。

1 累積

ルイセキ

2 翻訳

ホンヤク

3 怠

オコタ

4 潔白

ケツパク

5 露骨

ロコツ

6 ほうごう

縫合

7 ろうかく

楼閣

8 おちいる

陥

9 もつぱら

専

10 ようごう

要綱

第四問

*

問一

(1) イ

(2) ウ

問二

(1) ウ

(2) エ

問三

ア

エ

第五問

*

問一

独

亡

* 何患乎無兄弟也

三

二

一

問三

A

ウ

B

ア

問四

イ

*教科書によっては「三点」が掲載されていないため、「一・二点」のみを採点対象とした。